

ミラノ五輪代表に地元6選手



ミラノ・コルティナ五輪のアイスホッケー女子日本代表に選出され、ポーズを取る選手たち＝25日、苫小牧市

スマイルJ

日本アイスホッケー連盟は25日、2022年2月に開催されるミラノ・コルティナダンパツォ冬季五輪の女子アイスホッケー日本代表候補メンバー23人を発表した。このうち、釧路のクラブチームのDais hinから7選手、その他のチームに所属する釧路出身・関連では5選手が選出され、釧路勢は過去最多の12人が代表入りした。釧路在住者はこれまでで最も多い6人が選ばれた。

(関連記事9面に)

浮田選手4大会連続

アイスホッケー女子日本代表は、25年2月の同五輪最終予選(フランス、ポーランド、中国)で3連勝し、4大会連続5回目の本戦出場を決めた。代表メンバーは、国内での強化合宿や大会、海外遠征での結果などを踏まえて決定した。

内訳はGK3人、DF8人、FW12人。釧路在住は、いずれもDais hin所属のGK川口莉

ピングHC(スウェーデン)のDF人里亜矢可(31)、FW床奏留可(28)の6選手。

代表メンバーのうち、11人が初の五輪出場。14年のロシア・ソチ五輪から4大会連続出場は浮田、人里両選手のほか、DF小池詩織主将(32) 道路建設ペリグリンIIのわずか3人で、高校生は2人。世代交代が著しく進んだ新たな構成となった。所属する企業・学校別では釧路公立大学が最も多く、佐藤、野呂里、野呂莉、多田選手の4人が選ばれた。(山本雅之)

子(21)、DF佐藤虹羽(19)、FW野呂里桜(21)、FW野呂莉里(21)、FW多田藍(19)、FW小平梅花(17)の6選手。釧路出身・関連は、Dais hinのFW浮田留衣(29)、道路建設ペリグリンのDF細山田茜(33)、SEIBUプリンススラビッツのDF関夏菜美(25)、TOYOTAシグナスのFW伊藤麻琴(21)、リンシェー